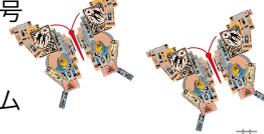




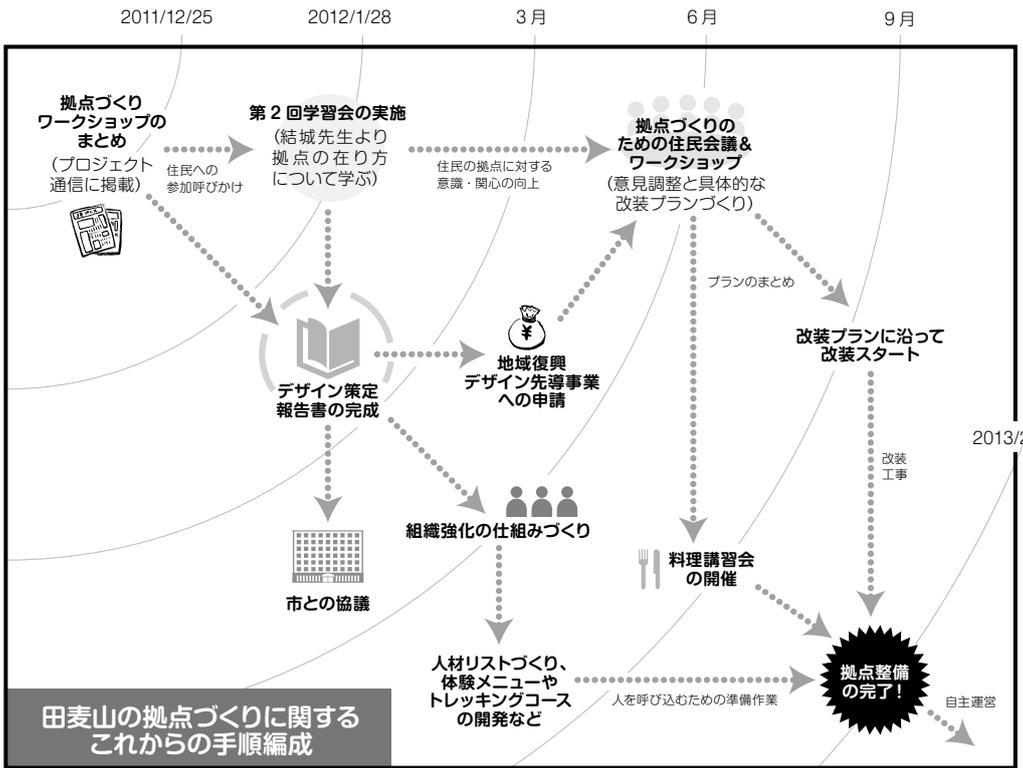
田麦山復興デザイン策定事業
2011.3.1-2012.2.28

2011年12月30日発行 通算11号

発行：田麦山地区連絡会 編集：田麦山に夢と誇りをつくる500人プロジェクト編集チーム



プロジェクトを見える化・現場の声が情報源・わかりやすく編集



新しい拠点づくりのための、おおまかな計画を練りました。来年は、住民のみなさんの意見を聞きながら、改装プランをつくる予定です！

行政との話し合いを始め、 拠点整備の大枠を決定する。

新しい年を迎えての
手順編成

拠点づくりの計画づくりを行う第4回
目の話し合いが行われました。第三回の
ワークショップを元にまとめられた、4
つの方針を進めていくためには、何を
いつまでに実行
していけばいい
のでしょうか。そ
の具体策を考え、
おおまかに計画
におとしていく
作業をしました。

田麦山の拠点づくりに関する
これからの手順編成

次回は、もう
少し詳細をつめ
て、より具体的
な行動計画をつ
くっていく予定
です。田麦山復
興策定デザイン
策定事業もいよ
よ終盤となり
ます。来年度へ
つなげていくた
めにも、ぜひあ
なたのご参加を
お待ちしております。

作業を進めていくためには、何を
いつまでに実行
していけばいい
のでしょうか。そ
の具体策を考え、
おおまかに計画
におとしていく
作業をしました。

次回は、もう
少し詳細をつめ
て、より具体的
な行動計画をつ
くっていく予定
です。田麦山復
興策定デザイン
策定事業もいよ
よ終盤となり
ます。来年度へ
つなげていくた
めにも、ぜひあ
なたのご参加を
お待ちしております。

作業を進めていくためには、何を
いつまでに実行
していけばいい
のでしょうか。そ
の具体策を考え、
おおまかに計画
におとしていく
作業をしました。

作業を進めていくためには、何を
いつまでに実行
していけばいい
のでしょうか。そ
の具体策を考え、
おおまかに計画
におとしていく
作業をしました。

夢で羽ばたく田麦山。夢は、見るもの？ つくるもの？ 誇りは、あるもの？ 育てるもの？ それとも、思い出すもの？ わき出すもの？ 答えはあなたの中に。

二〇一二年十二月六日(火)
定例会

△計画編成の具体策▽

※方針の次に掲げている具体的な案は十分議論されたものではありません。今後、方針の元に精査していく予定です。

方針1 関係者と協議、資金集め

・デザイン策定事業の報告書を持って、行政との話し合いを始め、拠点整備の大枠を決定する。

・来年度に向けて地域復興デザイン先導事業への申請をする。

・拠点づくりのための住民会議&ワークショップを企画し、具体的な改装プランをつくる。

方針2 実現に向けた組織づくり

・事務局人員を増やすなど、田麦山連絡会の事務局基盤を整える。

・連絡会と協議会のパイプをつくり、住民が参加しやすい組織づくりをする。

・協力者の人材リストをつくる。

方針3 人を呼び込むための仕掛けづくり

・料理講習会を開催する

・田麦山でできる体験メニューをつくる

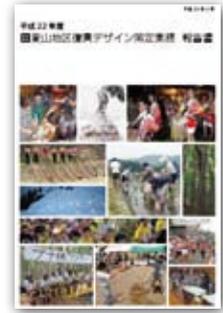
・トレッキングコースを開発する

2011年をふりかえる。

伊達直人

タイガーマスク運動

前年の12月25日、伊達直人と称した人物が児童相談所にランドセルを送った。新年を迎えると、全国各地の児童養護施設へ伊達直人を名乗る人物からの寄附行為が続いた。伊達直人は漫画・アニメになった「タイガーマスク」の主人公の名前。伊達直人は孤児院の育ちで、アニメのエンディングソングに誰もが哀愁を感じた名作である。



釜石市
撮影：大滝聡さん



6月 5月 4月 3月 2月 1月

平成22年田麦山地区復興デザイン策定業務報告書 発行

デザイン策定事業のポイント ①住民の手による徹底した地域資源調査を行なう。 ②情報ツールを整備し、田麦山の新しい価値を内外に発信する。 ③住民の夢や願いを視覚化する作業を行う。 ④小学校校舎を、交流の場として整備するプランをつくる。

平成23年田麦山地区復興デザイン策定スタート

3.11 東日本大震災

福島第一原子力発電所

レベル7

その日、田麦山復興デザイン策定を手伝い始めた地域づくりアドバイザーの大滝聡さんは、釜石市に居て被災者となりました。びっくりの23年度スタート。



村上市高根に多岐に渡った地域経営を学ぶ

集落で集めたお金(区費)で職員を二人雇っている。

田麦山トレッキング

まち歩きで見えてきた

まちあるきワークショップ

注目する10の地域資源

No.01 持ち寄り料理とオリジナル料理で

No.02 山の幸をおいしく頂いた「たんぎやまキッチン」

No.03 音と景色が美しい。相川・清水沢川・源太山川・小貴川の水系に広がる生態。

No.04 田麦山で採れた原油は、緑色で軽くて美しいものだった。田麦山油田の歴史物語。

No.05 おいしい土でいっぱい交流する田んぼ。

No.06 関東、新潟市のグループと交流。

No.07 個人からグループによる100%民間手づくりの「みんなの公園・遊び場」「看板」「ベンチ」「道普請」。

No.08 斜面を覆う天然ブナ林は、

No.09 神秘的で美しすぎる。

No.09 この目で見た野鳥31種類。山の相川鳥獣保護区。

No.10 癒される棚田と山々、河岸段丘の絶景と

No.07 田麦山ガイドの達人たち。エコスターズ。毎週、何かしらやっている田麦山の人々。黄色いフラッグ。

No.08 越後長岡百景、4000年の歴史がある川口最古の大杉と熊野神社。ご神木の幹周りは、560センチ。

あなたにとって
2011年は
どんな
年でしたか？

お米からパンを焼ける世界初のもの。2010年の11月にサンヨーが発売開始。予約受付と共に大ヒットし、2011年の日経トレンドアイテム商品ランキング第4位となる。1位はスマートフォン、2位はフェイスブック、3位は節電扇風機。

GOPAN

番外篇・2011年のヒット商品



田麦山を含め、川口地区全体が絆を黄色いフラッグにして、全国からの復興支援に感謝した。



12月 11月 10月 9月 8月 7月

田麦山学習会 地域資源の活かし方を学ぶ **結城登英雄さん**

文化とは、みんなので楽しむこと。

わざわざいいものから、ありがたきものへ。あたりまえを活かす方法を学ぶ。

田麦山わくわく教室 こどもたちの夏休みの宿題を学生たちが支援＆遊ぶ場。

TAMUGIYAMA未来創造大作戦 子ども向けワークショップ

① 図書館でいっしょでも楽しい本を 読めるようにしたい！
② 体育館や学校にいっしょでも 入れるようにして欲しい
③ 体育館を飾り
（子ども、大人が描いた絵）でいっしょにしたい

④ 学校全体を使って

宝さがしゲームをしたい

⑤ 水曜日にカルタ大会を やりたい（月3回）

⑥ 教室を

秘密基地にしたい！

拠点づくり計画

視察研修

心もお腹も大満足のコミュニティ食堂と

学校の雰囲気を残したままの絵本のような美術館

田麦山収穫祭

踊り、
復活。

絆

2011 新語・流行語大賞
今年の漢字第1位

新語・流行語大賞は、12月1日に東京で発表。2011年ユーキャン新語・流行語大賞（現代用語の基礎知識選）今年の漢字は、日本漢字能力検定協会が12月12日京都市清水寺で発表。「災」「震」「波」「助」「復」「協」「支」「命」「力」が「絆」に続き選ばれている。



田麦山のメンバーは、東日本大震災の現地を支援。被災地復興の絆が生まれた。宮城県山元町。

今後の予定

1月12日(木):定例会

時間：19:00～21:00

場所：田麦山公民館

定例会が田麦山公民館を会場にして開かれます。2月で今年度のデザイン策定事業は終了します。まとめに向かってぜひ皆さまご参加下さい。どなたでもご参加が可能です。

1月28日(土):デザイン策定成果発表会と第2回学習会

田麦山連絡会で進めてきた「田麦山復興デザイン策定事業」の発表会を行います。また、同時に第2回の学習会を開催します。第1回で大好評だった結城登美雄さんをお招きして、地域が運営する拠点の在り方について学びます。

※田麦山に夢と誇りをつくる500人プロジェクトのブログもご覧ください。
<http://tamugiyama.exblog.jp/>



編集後記

二〇一一年をふりかえる今号はいかがだったでしょうか。東日本震災によってさまざまなものをもう一度考え直さざるを得ない年だったように思えます。今年度の復興デザイン策定事業は、三月から始まりました。東日本大震災とともに始まったと言っているかもしれませんが、思えば、スタッフを統括する大滝聡さんは現地にいて被災していたのです。連絡がとれず心配したことを思い出します。さて、新しい年は…。楽しみです。



「関係者との協議、資金集め」
「実現に向けた組織づくり」
「人を呼び込むための仕掛けづくり」が求められています。

連絡会メンバーコラム

田麦山連絡会
大淵 賢



田麦山地区協議会が、今一度この田麦山を考えて見ようと言うことから連絡会を発足し復興デザイン策定事業に着手、「楽しく住める田麦山」を表題に掲げ早、二十一ヶ月が経ちました。

先の見えない中、まさに手探り状態が続きました。五里霧中状態からなかなか抜け出せず・・・地区の方から、噂では何かをしているみたいだけれど、何をしているのか伝わってこないと言うお叱りも多々頂きました。

川口サテライトの星野・中林両氏の献

身的な御協力と講師である大滝チームによるアドバイスの元で何とか進めてきました。

地区民全員参加による写真を使い自分の夢500人プロジェクトと平行し、この村にある宝物&資源探しからスタート。現在歴史班による、はねおけさの復活と田麦山の由来。自然班による、ポイントを落として田麦山の自然と野鳥。食班では、山菜及び保存食を中心に田麦山の食を探っています。

又、公民館の使い勝手を良くするには、

交流拠点として誰もが利用と活用を長く維持すべき方法にワークショップの中身も移動し議論が交わされています。

地震の前は700人の住民が、現在約450人、今後5年後、10年後、15年後、この田麦山にどんな状態の未来が待っているのか？何もせず手遅れで本当に良いのか。将来を背負う子供たちの素朴な疑問として『なんで体育館で遊べないの？遊べたらいいのに』と言う、小さな子供たちの大きな声もたくさん聞きました。

今後、一人ひとりの声を形としてま

とめるには、「関係者との協議、資金集め」「実現に向けた組織づくり」「人を呼び込むための仕掛けづくり」が求められています。少しでも良い形になれるように、一人でも多くの方から参加をして頂き、方向を模索していければと考えています。

皆様方のご協力、宜しくお願いいたします。